

卒業式 学園長祝辞

平成 20 年 3 月 22 日

本日武蔵大学をご卒業の皆さん誠におめでとうございます。よく今日までたゆまず勉強に励んでこられましたね。その努力の積み重ねの結果、今日この栄えある卒業式を迎えることになったのです。本当におめでとう。そしてずっと暖かく見守ってこられた保護者の方々にも心よりお祝い申し上げます。

いよいよ皆さんは社会に新しい一步を踏み出すことになります。その時どのような心構えを持っていたらよいでしょうか。日本には古くから和を尊ぶ精神があります。日本人は習慣の違い、宗教の違いなどに寛容な心を持っていることを、私は誇りに思っています。皆さんの中にはいろいろな宗教を信ずる人信じない人そして異なった習慣を持っている人等さまざまな人がおられるでしょう。にもかかわらずお互いに自由な考えを認め合い、尊敬し合い友情をもって交際しておられるでしょう。この寛容な精神を私は大切なものだと思うのです。皆さんがこの寛容さを今後も持ち続けて下さることを願いたします。日本の国内で日本人同士は勿論、異なる人種の人々に対しても等しく、この寛容な精神で接していただきたいのです。この態度を更に国外に行かれても持ち続けていただきたいのです。

私は世界的に見て文明の衝突によって生じている争いを大変残念に思っています。異なる人種、異なる宗教、異なる文化間の争いが、なかなか終りません。それどころかむしろ烈しくなっているように思われます。

皆さんが寛容の精神を持って日本の国内の平和を更に強くし、出来れば世界中を平和にする努力をしていただきたいのです。

このように寛容な精神を大切にする一方、自らの信念を貫くという強い意志も必要です。私自身の体験を述べてみましょう。皆さんは原子核の β 崩壊という言葉が聞かれたことがあるでしょう。一つの原子核が電子と反ニュートリノという粒子を放出して、原子番号が一つ大きな原子核になる現象です。1970年頃この β 崩壊の寿命が当時の原子核構造の標準的なモデルで予想されるものよりずっと長いことが実験で確かめられました。1972年私はアメリカのニューヨーク州立大学にいましたが、友人たちとこの謎を解く一つの考えを発表しました。でもそれから何十年もこの説は世界で認められませんでした。今述べた β 崩壊の寿命が長くなることの説明として別の説が提案され、それが世界中の原子核物理学研究者の大半に受け入れられました。多くの国際会議で私はさまざまな根拠とそれに基づく推理を述べて、我々の理論の正しさを説明したのですが、反対派は聞き入れてくれませんでした。しかし私は自分達の考えが正しいという信念を持ち続け、大多数の反対派と論争を続けてきました。1995年頃新しい実験が東京大学の仲間によって行われ、私達の考えが正しいことが証明されました。そして追試も行われ、間違いのないことが確立しました。1998年私はイタリアの北の町バレンナで行われた国際会議でこの問題について、いわば最終報告をしたわけです。そこにはかつての反対派も大勢いましたが、決定的な実験データによって、我々の考えの正しさが証明されたわけです。この間25年以上論争を続けました。

このように自分の考えが正しいと思ったならば、どんなに反対派が多くいて

も、がんとしてその信念を貫き通すべきです。

ただし、自分の考えが間違っていることが明らかになれば、その考えをさつさと撤回すべきです。ためらうことはありません。これが本来の「君子豹変」です。

日本人同士でいるとき、あまりに強く自説を主張し過ぎると、つき合いにくくなるという問題がないわけではありません。しかし正しい考えならば、信念を貫くことが必要です。特に外国人とのつき合いの場合は、自説が正しいと信じているならばはっきりとそのことを主張した方がよいと思います。

一方で寛容な精神の大切を述べ、一方で正しい考えであれば信念を貫くことの重要性を述べました。どちらも皆さんがこれから世の中で活躍するとき、役立つ考えであろうと思い、今日この機会をお借りしてお話しした次第です。

皆さんがこれからも健康を大切にして、新しい環境の下で生き生きと活躍して下さることを祈っています。そして時々この緑の多い美しい武蔵大学で楽しく学んだことを思い出し、ここで強めた師弟の絆と学友たちとの友情を更に深めて下さることを願っています。

皆さん本日は御卒業誠にありがとうございました。